

ART WEEK TOKYO

アートウィーク東京

@2021 ART WEEK TOKYO

現代アートの新しいプロジェクティブ・プラットフォーム「アートウィーク東京」は、今年もまたアート界を牽引する50のスポットへアクセスし、街中に広がるスペース、そこで発表される錚々たる顔ぶれのアーティストたちの作品を、この秋ぜひお見逃しなく。

11.4-7.2021 10AM-6PM

主催：一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム、協力：Art Basel (アート・バーゼル)、一般社団法人 日本現代美術商協会 (CADAN)
シヤトルバスの指定コロナウイルス感染予防対策は東京都交通局の案内に準拠します。各会場での指定コロナウイルス感染予防対策については各会場へお問い合わせ下さい。

Art Week Tokyo事務局 | 03-6631-7827 <https://www.artweektokyo.com/>

artweektokyo.com @artweektokyo

東京という都市の文脈に息づく現代アートを世界に向けて発信するためのプロジェクト「アートウィーク東京」。国際的に活躍するギャラリーから新世代のアーティスト・ラン・スペースまで、国立美術館からプライベートミュージアムまで。現代アートを牽引してきた都内50のギャラリーと美術館が集い協働する、かつてない規模のアートイベント。アートウィーク東京のパスを手には、アートに乗せて走る「アートバス」を自由に乗り降りして、50のスポットへアクセス！街中に広がるスペース、そこで発表される錚々たる顔ぶれのアーティストたちの作品を、この秋ぜひお見逃しなく。

アートウィーク東京

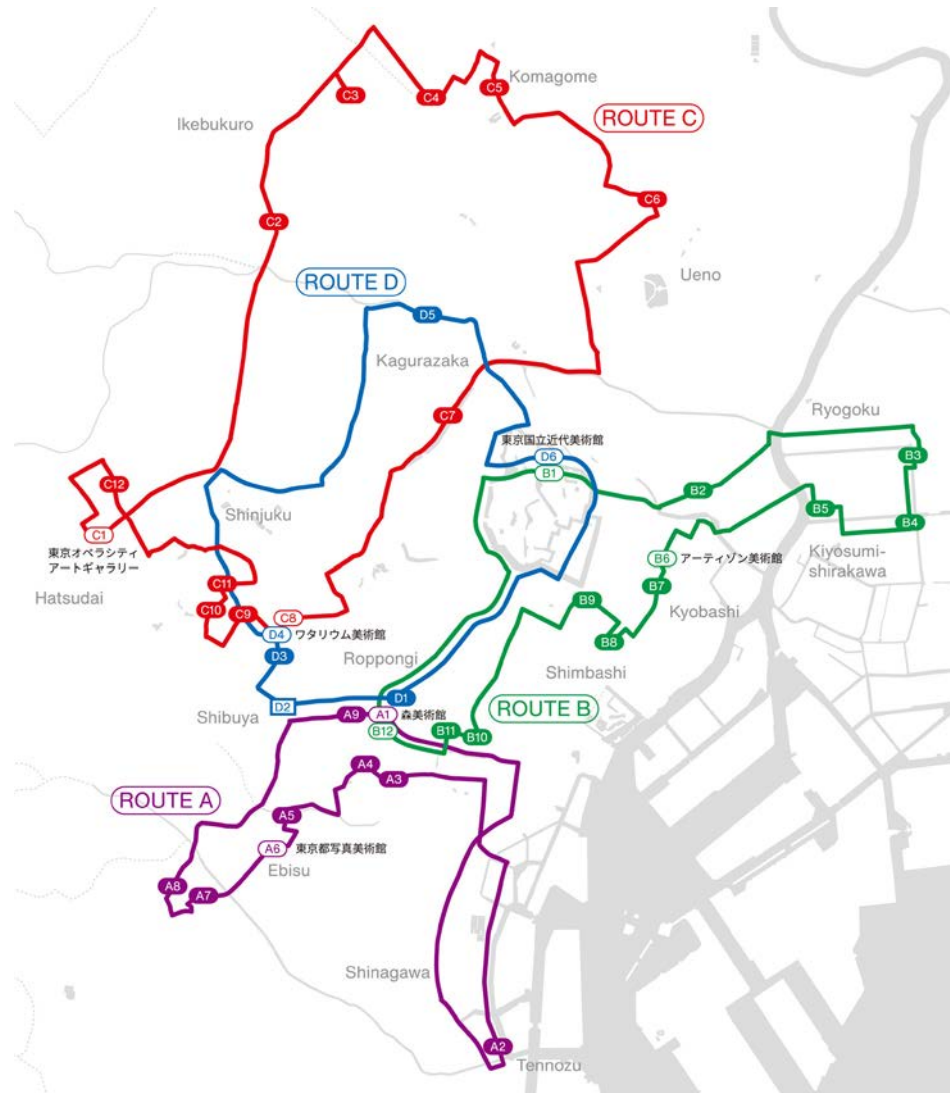
会期：2021年11月4日（木）—11月7日（日）

時間：10:00-18:00 *東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は11時開館。

会場：美術館6館・ギャラリー44軒

4 Routes & Museums / Galleries

4つのルートと参加美術館、ギャラリー



50の美術館とギャラリーを結ぶ4つのルート。ルートごとに異なる作品をのせた「アートバス」が毎日巡回！

ROUTE A

- A1&B12 森美術館
- A2 ANOMALY/ 児玉画廊 / ユカ・ツルノ・ギャラリー
- A3 MISA SHIN GALLERY
- A4 カイカイキキギャラリー
- A5 MEM
- A6 東京都写真美術館
- A7 POETIC SCAPE
- A8 青山目黒
- A9 ギャラリーサイド 2

ROUTE B

- B1&D6 東京国立近代美術館
- B2 タグチファインアート
- B3 無人島プロダクション
- B4 KANA KAWANISHI GALLERY
- B5 ハギワラプロジェクト
- B6 アーティゾン美術館
- B7 ギャラリー小柳 / 日動コンテンポラリーアート
- B8 THE CLUB/ 東京画廊 +BTAP
- B9 rin art association @ CADAN 有楽町
- B10 PGI
- B11 Take Ninagawa
- B12& A1 森美術館

ROUTE C

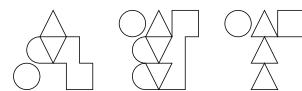
- C1 東京オペラシティ アートギャラリー
- C2 タリオンギャラリー
- C3 Fig. /MISAKO & ROSEN
- C4 4649/XYZ collective
- C5 カヨココウキ
- C6 スカイザバスハウス
- C7 ミヅマアートギャラリー
- C8 ワタリウム美術館 /MAHO KUBOTA GALLERY
- C9 ナンヅカ アンダーグラウンド
- C10 Blum & Poe
- C11 Gallery 38
- C12 ユミコチバアソシエイツ

ROUTE D

- D1 オオタファインアーツ /KOTARO NUKAGA/ 小山登美夫ギャラリー / シュウゴアーツ / タカ・イシイギャラリー /TARO NASU/ ペロタン東京 / Yutaka Kikutake Gallery
- D2 AWT インフォメーションセンター
- D3 ファーガス・マカフリー 東京
- D4 ワタリウム美術館
- D5 WAITINGROOM/Maki Fine Arts
- D6 & B1 東京国立近代美術館

Pick up exhibition

展覧会情報ピックアップ



ROUTE A

森美術館

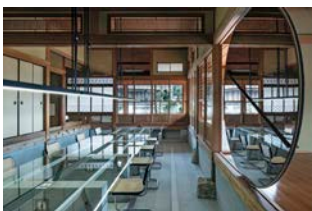
「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト16人」 会期：4月22日～2022年1月6日
ダイバーシティが重要視される潮流のなか、現代アートにおいても注目の集まる、長いキャリアを持つ女性アーティストを紹介。世界各地の72歳から106歳まで16人の作品・活動を通して、作家たちを突き動かす特別な力、「アナザーエナジー」とは何かを考える。エテル・アドナン、フィリダ・パロウ、アンナ・ポギギアン、ミリアム・カーンほか。



カイカイキキギャラリー

「Event Horizon」 会期：10月22日 - 11月11日（予定）

アルミニウム、ガラス、ブロンズ、粘土といった素材を型にはまらない方法で探求し、彫刻への考察を深めるフランス人アーティスト、ジャンマリ・アブリユの日本初個展を開催。本展では、宇宙飛行士と海の生物をテーマとした2つの新作シリーズを発表。



青山目黒

「HAPPA フェス」 会期：11月4日 - 11月7日

「Happa」に入居するジャンルの異なる4グループ（DDAA 元木大輔/建築設計、sakumotto / イベント・ショップ企画、蓮沼執太/音楽家、アーティスト、青山目黒）のプレゼンテーション展示。ギャラリーとミーティングスペースの境界を開き一つの会場とし、4者が作品を持ち寄り総合的なインスタレーションを提示。



ギャラリーサイド2

「三井淑香新作展」 会期：10月22日 - 11月26日

三井淑香の個展。自身の娘と過ごす日常の時間や事物、韓国から来日し貿易業を営んだ祖父の思い出などを通し、現代のポップなイメージと隣り合わせに表現される伝統文化へのオマージュを描き、過去と現在が行き交う不思議な時空をつくり出す。



ROUTE B

アーティゾン美術館

ジャム・セッション 石橋財団コレクション × 森村泰昌

M式「海の幸」— 森村泰昌 ワタシガタリの神話 会期：10月2日 - 2022年1月10日

「自画像的作品」をテーマに制作してきた森村泰昌は、石橋財団所蔵の青木繁《自画像》、《海の幸》に着想を得た作品を制作するなど、以前から同財団の青木作品に想いを抱いてきた。改めて《海の幸》と向き合い、青木への想いを新たな作品へと昇華させるなど、青木作品約10点、50点以上の新作を含む森村作品約60点で構成。



ギャラリー小柳

「I saw it, it was yours.」 会期：9月11日 - 10月30日, 11月4日～11月7日

膨大な作業量によって描かれた鉛筆画を空間に配したインスタレーションを展開する橋本晶子の個展。2020年の資生堂ギャラリーでの個展「Ask him」で展示したトレーシングペーパーにカーテンを描いた巨大な鉛筆画に新作10点を組み合わせ、ギャラリーの空間に新たな風景をつくり上げる。

無人島プロダクション

「ディスリンピアン2021」 会期：10月30日 - 11月20日

風間サチコ個展。《ディスリンピク 2680》(2018) から派生した展覧会。《ディスリンピアン九軍神》では、国の威信を上げ鍛え上げられた9名のアスリートが描かれ、それぞれに社会背景やドラマが設定されている。コロナ感染者数の爆発的急増と比例するかのよう連日メダルラッシュが報道された TOKYO2020 の後に残されたものとは何か。



Take Ninagawa

大竹伸朗「残景」 会期：10月30日 - 12月18日

多様なフォームを用い、現代の文化的な創作やその活動がいかに流通し受容されるかを探ってきた大竹伸朗。本展では、本展では、コロナ禍に取り組んだ新しい連作『残景』を紹介。さまざまな素材を組み合わせた分厚い油彩画の堆積物から成る、三次元の構造を組み込んだ新たな作品を通して「記憶の最後に残る景色」を探求する。

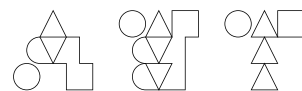


クレジット（写真上から）

Courtesy: Hauser & Wirth Photo: Furukawa Yuya Photo courtesy: Mori Art Museum, Tokyo / © Jean-Marie Appriou Courtesy of the artist Photo: Benjamin Baltis / © Daisuke Motogi / 三井淑香『壺の間』/ 森村泰昌《自画像/青春 (Aoki)》/ Installation view of Akiko Hashimoto: Ask him at The 14th shiseido art egg, Shiseido Gallery, 2020 制作協力: 資生堂 © Akiko Hashimoto Photo by Watson Studio / Photo: Mineo Sakata Courtesy of Fuchu Art Museum / © Shinro Ohtake, Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo Photo by Kei Okano

Pick up exhibition

展覧会情報ピックアップ



ROUTE C

ワタリウム美術館

梅津庸一展「ポリネーター」 会期：9月16日 - 2022年1月16日

ドローイング、絵画、映像、陶芸などの作品制作から、キュレーション、非営利ギャラリーの運営などを行う梅津庸一の2004年から2021年までの作品を、作家自身のキュレーションで紹介。展覧会名「ポリネーター」は植物の花粉を運び受粉させる媒介者の意で、梅津自身の立ち位置を喩えて選ばれた。信楽で滞在制作した新作の陶芸作品も多数出品。



スカイザバスハウス

「Tornscape」 会期：11月2日 - 12月18日

名和晃平の個展。独自のアルゴリズムで反応変化し続ける映像インスタレーション《Tornscape》などを発表。災害と疫病に見舞われた800年前の随筆を参照する本作は、気象や物理データのパラメータを調整したデジタルシミュレーションによって、生まれては消える泡のように無常な世界を描き出し、今日の時代と共鳴する。



ナンツカ アンダーグラウンド

「SOME DAYS ARE DIAMOND」 会期：10月9日 - 11月7日

ラゴスを拠点に活動するワハブ・サヒードの日本初個展。印象的なマークやパターン、色鮮やかな背景と木炭で描かれた部分の暗さによる色価により、情緒的で脆弱なモチーフに独自のコントラストを与えるサヒードの作品は、人間の存在を構成するのに不可欠な出来事、それをとらえることのできる心理とは何かを探し続けている。



4649

「カルビン・ミシェリ - ネルソンと清水将吾」 会期：11月4日 - 12月19日

ロサンゼルスをベースに活動する画家、カルビン・ミシェリ - ネルソンと、4649のディレクターでもある清水将吾による二人展。ともに1993年生まれの二人の、作品を通じたインターネット上での自動的な交流をきっかけに企画された。ミシェリ - ネルソンにとっては日本での初展覧会。

ROUTE D

東京国立近代美術館

柳宗悦没後60年記念展「民藝の100年」 会期：10月26日 - 2022年2月13日

「民藝」の動向を、「民藝運動の父」と呼ばれる柳宗悦の没後60年の年に紹介。400点を超える柳らが蒐集した暮らしの道具類や民画コレクション、出版物、写真、映像などの同時代資料を通し、民藝とその内外に広がる社会、歴史、経済を浮かび上がらせる。「MOMATコレクション」では、戦後のグラフィックデザインと美術の間にあった造形や人々の交流に焦点を当てた展示を開催。



シュウゴアーツ

「わたしはどこに立っている」 会期：10月30日 - 11月27日

美術史や20世紀の歴史的人物などに扮して写真によるセルフ・ポートレイトを制作する森村泰昌と、ヴェニス・ムラノ島で吹きガラスによる制作を行う三嶋りつ恵の共同プロジェクトとして二人展を開催。森村の自画像の美術史シリーズより、松本俊介、ヤン・ファン・エイク、デューラー、ダヴィンチ、カラヴァッジョ、ゴッホらを取りあげ、三嶋はそれらの人物へ捧げる新作をヴェニスで制作して発表。



小山登美夫ギャラリー

「シュシ・スライマン展」 会期：10月7日 - 11月13日

東南アジアの歴史、祖国マレーシアの文化や自身の記憶、アイデンティティを作品の大きなテーマとするシュシ・スライマンの個展。マレー系と中国系にルーツを持つスライマンは、その土地特有の樹木や土、水などの自然物を使用しながら、幅広いアプローチで表現を行ってきた。その神秘的な世界観は、人間、自然、アートとの分かち難い複雑な関係性を観る者に提示する。



クレジット (写真上から)

©Yoichi Umetsu / Kohei Nawa 『Tornscape』 / ©Wahab Saheed Courtesy of NANZUKA / Courtesy of the artist and 4649, Tokyo / 《羽広鉄瓶》山形県 1934年頃 日本民藝館 / Copyright the artist, Courtesy of ShugoArts Photo by Francesco Barasciutti ©Yasumasa Morimura ©Ritsue Mishima / © Shooshie Sulaiman, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



「アートバス」で巡る！車内でのみ体験できる特別企画「都市を巡る声」

美術館とギャラリーを結ぶ4つのルートを巡回する「アートバス」。ルートごとに異なる4つの作品が体験できます。参加アーティストは、**グループ・音楽**、**塩見允枝子**、**高山明**、**毛利悠子**の4組。企画は**ユン・マ氏**。AWTのパスの提示で乗り降り自由なバスに乗り、4組のアーティストが創造する「声」と共に東京を巡りましょう！

*シャトルバスの新型コロナウイルス感染症予防対策は東京都交通局の規定に準拠します。

【4 作品について】

グループ・音楽

東京藝術大学音楽学部楽理科の学生だった水野修孝、小杉武久、塩見允枝子、刀根康尚らによる集団即興演奏のグループ。1960年から62年にかけて固定化された楽譜から音楽を解放し、時間と空間に対応した音響創りを探求した。今回のアートバスでは、60年にメンバーが水野の自宅で楽器、ラジオ、掃除機、ドラム缶、食器などで音を出し、集団的即興行動の軌跡である音響を記録した2曲と、61年に草月会館ホールで開催された公演会第2部の録音を紹介する。

塩見 允枝子 (しおみ みえこ)

フルクサスの重要なメンバーの一人、塩見は音楽を起点に活動をスタートし、自然や日常の事象などを対象とする「イベント」と呼ばれる行為のアートを行ってきた。塩見のイベントやパフォーマンスには、コンセプトや演奏法をことばで表現したインストラクション（指示書）があり、それに基づく行為を通して作品は成立する。今回のアートバスでは《AWT 巡回バスの為の五つのイベント》のインストラクションを制作。乗客は、バスの中で聞こえる音や目にすることばに意識を向け、各自好きなイベントを行う。

高山 明 (たかやま あきら)

1937年から1945年にかけて制作された「戦争画(戦争記録画)」は、終戦後GHQが接收、1970年に「無期限貸与」というかたちで日本に返還され、現在は東京国立近代美術館に153点が収蔵されている。高山明による「戦争画/ヘテロトピア—東京国立近代美術館編」は、各絵画の舞台となった国の詩人が詩を創作し、本人による原文朗読と日本語訳の朗読を通して、目の前には存在しない戦争画を「展示」するプロジェクト。今回はそのうちの4点を題材に、バスの中での「展示」を試みる。

毛利 悠子 (もうり ゆうこ)

東京の街をご当地ソングとともにバスで巡る新作のサウンド・プログラムを発表。男女の恋や流行風俗といった都市生活者の姿を描いてきた日本の「歌謡曲」というジャンルは、東京の国際化につれて多様なサウンドを取り込みながら、映画やラジオ、テレビなどの新興メディアに乗って隆盛を極めた。ネオン煌めく銀座や六本木……人々の欲望が渦巻く東京の姿と、敗戦から復興へといたる昭和後期に花開いた歌謡曲の歴史とを重ね、ムード歌謡歌手で芸人のタブレット純と音楽評論家の湯浅学が、歌を通して東京の街を案内する。

■アートウィーク東京 (AWT) パス

会期中に運行する「アートバス」に乗り降り自由なパス。中学生以下無料。

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| ① AWT パス | 1,000 円 (1 日有効) |
| ② AWT ペアパス | 1,800 円 (1 日有効、2 名分) |
| ③ AWT 4-DAY パス | 2,000 円 (4 日有効) |
| ④ AWT エクストラパス | 2,800 円 (1 日有効、数量限定オリジナルトートバッグ付) |

<パス特典>

- ・有効期間内はどのルート、どのバスにも乗り降り自由。
- ・パスの提示で美術館で割引や特典を受けられます。
(詳細は公式ウェブサイトパス購入ページでご確認ください。)

<ご購入はアートウィーク東京公式ウェブサイトより>

artweektokyo.com



【オリジナルトートバッグイメージ】
AWT ロゴ、オリジナルトートバッグ、
ポスターデザイン：加瀬透



オルタナティブなアート教育を担ってきた非営利のグループ、アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] がお届けする、日本の現代アートの美術史的文脈やその楽しみ方に焦点をあてたオンラインのトークシリーズ。

アートウィーク東京公式 YouTube チャンネルで配信します。



photo: Keizo Kioku

photo: Kenshu Shintsubo

10月4日(月) 20:00 - 21:00

保坂健二郎 / 滋賀県立美術館ディレクター (館長) × 藤村龍至 / 建築家、東京藝術大学建築科准教授

対談：アートと都市の近未来 東京の近過去 1964 - 2021 から考える

めまぐるしく変化し続けてきた東京。1964年の五輪以後、都市開発を本格化させ、様々な法案が時代に適応した新しい姿を東京に与えてきた。二度目の東京五輪を終えた今、さらなる展望は？ また、東京の変化にアートはどのように応答してきたか？歴代のアート・スペースの動きから近過去を振り返りつつ、アートと都市の近未来について語り合う。



photo: Akinori Ito

10月20日(水)

片岡 真実 / 森美術館 館長

「変遷する芸術の価値 評価するのは「どこ」の「だれ」なのか？」

長らくニューヨークやロンドンなど欧米を中心に蓄積されてきた、戦後の美術史。それらアートの「中心」に向け発信されつつも、企画者の期待どおりに受容されず、国家や地域の経済的影響力や政治的存在感によりその評価を変化させてきた、日本やアジアの現代アートは少なくない。50年代以降日本およびアジアから欧米に向けて発信された主要な展覧会とその受容を検証し、変化する評価軸と社会背景の関係などについて考える。

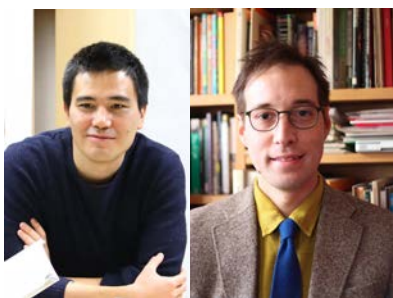


photo: Yukiko Koshima

10月27日(水)

ロジャー・マクドナルド / キュレーター、エドゥケーター

× アンドリュー・マークル / アートライター、エドゥケーター

対談：日本のアート教育の現在地 教育に「王道」はあるか？

日本から、そして国際的な視点から日本のアートを学ぶための方法、その意味を考える。美学校(1969-)、MAD(2001-19)、四谷アート・ステディウム(2004-14)など、東京を拠点とする「オルタナティブなアートスクール」で実践された先駆的な学びを出発点に日本の現代美術史を振り返る。また、2010年代以降のアートの動向を追いながら、アーティスト主導による主体的な学びを俯瞰することで、自律的な学びのあり方について議論する。



Photo: Takuma Uematsu

11月3日(水)

塩見允枝子 × 橋本梓 / 国立国際美術館主任研究員

インタビュー：時間と空間を越えて：塩見允枝子の世界

「グループ・音楽」「フルクサス」のメンバー、塩見允枝子へのインタビュー。即興演奏の練習中に行なった何気ない振る舞いから「イベント」と呼ばれる詩的なアクションへと至った塩見は、以後、音楽、美術、パフォーマンスと領域を越えて現在まで活動を続けている。軽やかに、グローバルに展開した芸術実践、90年代以後は電子テクノロジーやプログラミングも用いた新たなフルクサスの解釈と演奏など、半世紀以上に及ぶ活動を振り返る。

Information

アートウィーク東京 開催概要



会期：2021年11月4日（木）－11月7日（日）

時間：10:00–18:00 *東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は11時開館。

会場：美術館6館・ギャラリー44軒

AWT インフォメーションセンター：東京都港区南青山5-4-30

主催：一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム（JCAP）

協力：Art Basel（アートバーゼル）、一般社団法人 日本現代美術商協会（CADAN）

主催者より

「アートウィーク東京」は、日本のコンテンポラリーアートの創造性と多様性、またそのコミュニティを国内外に紹介することを目的に設立されました。インフラを整え、東京のアートシーン形成に携わる主要なアートスポットへのアクセスを簡易化することで、全ての方をアートのプロフェッショナルと繋ぎ、日本の現代アートのコミュニティの創造を促すことができると考えています。また、グローバル・ブランドである Art Basel の協力によって、国際社会と日本の関係をより強固なものにしたいと考えています。

蜷川 敦子（にながわ あつこ）

Take Ninagawa 代表、
アートウィーク東京 共同設立者・ディレクター

2008年にギャラリー、タケニナガワを東麻布に設立。以降、国際的な文脈の中で日本のアーティストを紹介することに努める。Art Basel 香港のセレクションコミッティー。グローバル・サウス問題を扱うアートのためのプラットフォーム SOUTH SOUTH にコラボレーターとして関わる。2021年一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームを共同設立、アートウィーク東京を立ち上げる。

photo: Katsuhiko Saiki



【Contact】

ご質問、取材や掲載等に関するお問い合わせは、下記プレス担当までお問い合わせください。

AWT プレス担当：竹形 尚子 / デイリープレス
t. 03-6416-3201 090-1531-6268
naotakegata@dailypress.org